

教科	前年度正答率(%) 【全国比(P)】		課題となる 観点	問題番号・出題のねらい <学習指導要領>	前年度自校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析(○)、教育指導上の要因分析(●)	課題改善のための<指導場面(指導時期)>と具体的な取組	目標値	検証値
国語	教科全体	71.7 [+3.3]	思考・判断・表現	5(1) 叙述を基に文章の内容を捉えている。<3・4年思考・判断・表現C(1)ア>	25.0 [-13.9]	○文章の内容を正確に捉えることができていなかった。これは、説明文の構成について理解することはできていたが、文章に書かれていることを最後までしっかりと目を通すことや、文章の大切なところ、キーワードとなる言葉の読み取りが十分にできていなかったためと考えられる。 ●文章の内容を捉える上で、段落相互の関係に着目して捉えることの指導が不十分であった。	◀説明的な文章の指導(5月・11月・1月)▶ 「構造と内容の把握」の学習過程において、中心となる文を見つけ、段落相互の関係に着目しながら、文章の内容を捉えるよう指導を行う。	正答率 50.0%	% 【P】
	知識・技能	75.6 [+4.7]							
	思考・判断・表現	63.3 [+2.2]							
	主体的に学習に取り組む態度	58.3 [+3.8]							
社会	教科全体	【】		<>		○ ●	◀(月)▶	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							
算数/数学	教科全体	74.5 [+4.6]	思考・判断・表現	17 余りのある除法の答えの確かめ方を説明している。<3年A(4)イ(ア)ア>	25.0 [-12.9]	○答えの確かめに出てくる数字の意味が分かっていなかった。これは、除法の計算によって得られた商と除数の積に余りを足すことで被除数に一致するかどうかを調べることについて、その性質の意味を理解できていなかったことが原因であると考えられる。 ●計算の結果を確かめるために乗法と加法を使うことを理解させることに重点を置いてしまい、除法で得られた商と除数、余りに対応させて、答えの確かめ方を考えさせる指導が不十分であった。また、自分の考えを説明する機会が不十分であった。	◀計算の確かめにおける指導(通年)▶ 計算に関して成り立つ性質を見出し、その性質を確かめに活用するとともに、言葉の式を用いることで、確かめにおける計算の意味を理解することができるよう指導を行う。 ◀対話による指導(通年)▶ ・他者の説明を取り入れ、全員が説明できる機会を設ける。また、教え合いの場面を設定し、相手に伝える方法を考えさせる。	正答率 35.0%	% 【P】
	知識・技能	79.7 [+4.7]							
	思考・判断・表現	56.0 [+5.7]							
	主体的に学習に取り組む態度	61.1 [+4.7]							
理科	教科全体	55.7 [-2.8]	思考・判断・表現	5(1) やり直した実験の方法から、どのように実験をやり直したかを推測できる。<3年A(3)イ>	8.3 [-22.4]	○問題文の実験内容を正確に捉えることができていなかった。これは、「はね返した日光をたくさん重ねると温度が高くなること」について理解しており、その知識を基に回答してしまい、予想を確かめるために実験をしていることを理解できていなかったことが原因と考えられる。 ●予想を確かめるために実験をするという指導が不十分であった。予想したことが正しいか調べる方法や必要なものを考える時間の確保をすることができていなかった。	◀実験の計画における指導(通年)▶ 予想を確かめるために、どのような方法で調べたらよいか考え、その考えを基に実験を計画することができるよう指導を行う。また、実験後の振り返りににおいて、実験の方法が適切であったか確かめる時間を設定する。	正答率 30.0%	% 【P】
	知識・技能	65.3 [+0.9]							
	思考・判断・表現	49.0 [-5.4]							
	主体的に学習に取り組む態度	50.0 [-8.0]							
英語	教科全体	【】		<>		○ ●	◀(月)▶	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							